

私立大学研究ブランディング事業 令和元年度の進捗状況

学校法人番号	291002	学校法人名	帝塚山学園		
大学名	帝塚山大学				
事業名	「帝塚山プラットフォーム」の構築による学際的「奈良学」研究の推進				
申請タイプ	タイプA	支援期間	3年	収容定員	3390人
参画組織	人文科学研究科・心理科学研究科・文学部・経済学部・経営学部・法学部・心理学部・現代生活学部				
事業概要	<p>本事業では、奈良県全体を研究のフィールドとする本学独自の「奈良まるごとキャンパス®」構想にもとづき、地域の拠点として「帝塚山プラットフォーム」を構築し、学際的な「奈良学」研究を推進する。「奈良学」は、奈良を研究対象とし、日本や世界における奈良の位置づけを明らかにするものである。産官学との連携による「奈良学」研究を通して地域の活性化や創生に取り組むことで、地域の拠点大学としてのブランドを確立する。</p>				
①事業目的	<p>本事業の目的は、奈良県全体を研究のフィールドとする本学独自の「奈良まるごとキャンパス®」構想にもとづき「帝塚山プラットフォーム」を構築して学際的な「奈良学」研究を推進することで、奈良に存在する様々な文化資産や観光資源を再発見し、その成果を広く社会に発信していく取り組みを本学と地域が協働して行うことにより、地域の活性化と創生に結び付けることである。さらに、本取り組みを通じて、奈良県に立地し、地域の振興や情報発信の拠点としての重責を担う帝塚山大学の役割や存在をより明確なものとし、地域における独自性を本学の特色として打ち出すことで、本学のブランドの確立に結び付けていくことをめざす。</p>				
②令和元年度の実施目標及び実施計画	研究活動	<p>【目標】 3領域の「実証」に関わる研究および「実践・発信」に関わる取り組みを継続実施、一定の成果を示す。</p> <p>【指標】 個々の研究課題で設定した指標にもとづき、調査報告書、映像記録、開発商品等の成果物を提示し、積極的に公開。「奈良学シンポジウム」も開催する。</p>			
	ブランディング戦略	<p>【目標】 年度末時点において、ステークホルダーごとに定めたブランディング戦略の到達目標を達成する。</p> <p>【指標】 ステークホルダーごとの到達目標の達成状況（各ステークホルダーの成果指標は「3.ブランディング戦略」参照）</p>			
	研究活動	<p>【実施計画】 ○「文化財・祭事」「食文化・伝統産業」「地域・コミュニティ」各領域の「実証」および「実践・発信」の総括</p> <p>【測定方法】 ○事前に設定した評価指標にもとづき、奈良学研究推進委員会が事後評価を行い、研究期間を通じての効果を検証する。</p>			
	ブランディング戦略	<p>【実施計画】 平成29・30年度からの継続した取り組みに加え、以下について実施する。 ○本事業の集大成となる「奈良学シンポジウム」を開催する。</p> <p>【測定方法】 ○ステークホルダーごとの到達目標の測定方法による。</p>			

令和元年度

「帝塚山プラットフォーム」事業の最終総括
今後の方向性の検討
外部評価委員会による最終評価

○文化財・祭事

<聖徳太子関連遺跡>

聖徳太子関連遺跡の調査研究の成果を『聖徳太子関連遺跡の研究－法隆寺創建瓦生産窯の調査－』と題する報告書に纏め刊行した。また、調査成果の公表を目的として、学内外での一般市民や研究者向けの展示会や講演会などを企画し、本研究の成果を広く社会に周知した。学外では、令和元年7月に京都府城陽市歴史民俗資料館：「自瓦自賛－瓦を解き明かす－」（展示・解説・イベント）、同10月に大阪府島本町立歴史文化資料館：「鈴谷瓦窯跡と東大寺」（展示・講座・イベント）を行った。なお、枚方市メセナひらかた：「聖徳太子と楠葉の瓦」、奈良春日野国際フォーラム：「聖徳太子関連遺跡の研究」の両講演会は、新型コロナウイルスによる政府からのイベント自粛要請に基づき、中止となった。なお、本研究の成果を取り纏め、帝塚山大学出版会から刊行した『奈良学叢書3奈良学研究的現在Ⅱ』において、「聖徳太子と古代の三郷」として公表した。

<正倉院宝物研究>

ポスト天平文化の敷衍をテーマに、10世紀の中国・遼時代の文化財を中国内蒙古自治区フフホト市の内蒙古博物院及び内蒙古文物考古研究所で調査した成果を取り纏め、帝塚山大学出版会から刊行した『奈良学叢書3奈良学研究的現在Ⅱ』において、「遼時代の皇族墓についての新知見」として公表した。

<奈良仏像史研究>

本学が所蔵する約7000点の永野鹿鳴荘ガラス乾板資料の調査と整理に継続的に取り組み、その成果を報告書『永野鹿鳴荘ガラス乾板資料調査概報(4)・(5)』として刊行した。『永野鹿鳴荘ガラス乾板資料調査概報(5)』をもって概報としての刊行を完結させた。帝塚山大学奈良学総合文化研究所の学術誌紀要『奈良学研究』にも「永野鹿鳴荘ガラス乾板資料の整理と撮影画像の特徴について」の資料報告を発表した。また、研究の成果を広く公表するため、令和2年3月には、本事業成果の展示・公開企画として、東京都千代田区にある日本カメラ博物館「永野太造写真展「仏像－永野鹿鳴荘ガラス乾板より－」、半蔵門ミュージアム「大和路の仏にであう－奈良に生きた写真家・永野太造と仏像写真－」を2館が時期を合わせて連携実施し、日本カメラ博物館では展示図録も作成した。

○食文化・伝統産業

<大和野菜の食物学的研究>

大和野菜の5大栄養素の分析と味認識装置による分析や抗酸化力測定、遊離アミノ酸の分析の成果に基づき、大和野菜を使った弁当を開発し、学内連携の食育実践で併設の幼稚園の給食として提供、奈良コープ宅配弁当「帝塚山大学の日」（年6回）で大和野菜の献立を提供した。また、大和野菜を弁当以外に生かした調理法と総菜以外のお菓子などへの活用範囲を広げることとし、分析データを活用したメニューを検討、大和野菜を用いたシフォンケーキやドーナツなどのオリジナルスイーツを開発して「第8回大和郡山良い食品博覧会」に出品した。一般の方には、帝塚山大学奈良学総合文化研究所主催の公開講座で「大和野菜の魅力」と題した研究成果を発表した。また、帝塚山大学出版会から刊行した『奈良学叢書3奈良学研究的現在Ⅱ』において、「大和野菜の魅力」として公表した。この他、地元ケーブルテレビでの大和野菜の簡単レシピの配信や冊子『大和野菜のレシピ』の作成など、大和野菜の周知およびその活用等についての普及活動に取り組んだ。

<奈良晒研究>

近世奈良の伝統産業であった奈良晒（さらし）に焦点を当てた織物講座（学校教育法第105条の規定に基づく社会人の学び直し履修証明プログラムとして）の初級編、応用編、研究編を継続開講し、最終年度は延べ17名に、各編に応じた「帝塚山大学織物マイスター」の履修証明書を発行した。実践・発信として、大学祭（あかね祭）における織物講座作品展や学外のギャラリーにおいて織物講座作品展を開催し、成果を公開することを通して、多くの来場者を迎え入れた。

○地域・コミュニティ

<五條市歴史学的研究>

五條市に残る未成線「五新線跡」跡および五條市史跡公園の機関車の360度VR映像の撮影、同市の重要伝統的建造物群保存地区・新町通りの撮影を行った。また、同市出身の藤岡長和関係資料を入手し、長和をめぐる同時代の文化人たちとの交流に関する調査を行うとともに、登録有形文化財「藤岡家住宅」を管理するNPO法人うちの館の館長、学芸員に聞き取り調査を行い、同住宅の撮影を行った。五條市地域・産業ブランド推進協議会では、五條市の地方創生や地域資源の地域産業への接続等について協議を行った。令和2年3月に開催を予定していた「奈良学フォーラム」で、本事業の研究成果を含めた本学における奈良学研究的総括を発表することとしていたが、新型コロナウイルスによる自粛要請を受け、同フォーラムの開催が中止となった。

③令和元年度の事業成果

	<p><地域の生活文化研究> 奈良県の東部高原地域、北西部地域を中心に民俗資料や聞き取り調査による生活文化研究を行った。特に奈良県天理市の「福住プロジェクト」での研究成果が大きく、この内容を活用した行事を多数開催した。令和元年9月から11月にかけて、大和郡山市にある奈良県立民俗博物館と共催で特別企画展示「絵と道具でたどる昔の奈良の暮らし」を同博物館を会場として開催した。帝塚山大学出版会から刊行した「奈良山里の生活図誌」掲載の生活絵図のパネルを、県立民俗博物館の常設展示である生活用具やジオラマとともに展示した比較展示は、昔の暮らしをより鮮明に蘇らせる効果があり、多くの一般来場者を集めるとともに、奈良県内外の小学校の校外学習にも大いに役立ててもらった結果となった。</p> <p><奈良県北西部歴史文化研究> 奈良県生駒市(富雄川左岸地域)において現地調査を実施し、当該地域の古道に関わる文化財の概観的な把握の成果が得られた。また、奈良県斑鳩町神南地区において現地調査では口承、文書による情報、瓦製造に関わる情報の収集の成果が得られた。一般の方へは、帝塚山大学奈良学総合文化研究所主催の公開講座で「大和「とみ」地域の古代史」と題した研究成果を発表した。また、帝塚山大学出版会から刊行した「奈良学叢書3奈良学研究的現在Ⅱ」において、「帝塚山大学所蔵古文書」として公表した。研究成果として、民俗文化調査として「奈良県生駒郡斑鳩町神南の民俗文化」、古道の調査として「富雄川流域の古道と歴史」の報告書を作成した。</p> <p>【ブランディング戦略】 ○奈良学総合文化研究所の公開講座「奈良学への招待」(4回)、「名品・名作誕生」(2回)、附属博物館・考古学研究所の市民大学講座(16回)を実施した。 ○奈良学ブックレット「奈良学叢書3 奈良学研究的現在Ⅱ」(帝塚山大学出版会)を刊行した。 ○大学広報誌「大学通信帝塚山」および学園広報誌「T-time」でブランディング事業の特集ページを設け、「2019年度版実学パンフレット(事例集)」を発行した。 ○地元ケーブルテレビで大和野菜の簡単レシピ配信、冊子「大和野菜のレシピ」を作成した。 ○奈良県立民俗博物館と共催で企画展示「絵と道具でたどる昔の奈良の暮らし」を開催した。 ○京都府城陽市歴史民俗資料館にて「自瓦自費－瓦を解き明かす－」(展示・解説・イベント)、大阪府島本町立歴史文化資料館にて「鈴谷瓦窯跡と東大寺」(展示・講座・イベント)を共催で開催した。 ○東京都千代田区の日本カメラ博物館にて「永野太造写真展「仏像－永野鹿鳴荘ガラス乾板より－」、半蔵門ミュージアムにて「大和路の仏にてあう－奈良に生きた写真家・永野太造と仏像写真－」を共催で開催した。</p>
<p>④ 令和元年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) 研究課題として設定した7つの取り組みに「奈良県北西部歴史文化研究」を加えた8つの取り組みを継続実施し、事業目的を念頭に、期中での進捗確認を行いつつ最終年度としての成果の検証、報告書等の成果物の作成を行った。いずれの取り組みも概ね所期の目的を達成する成果が挙げられた。また、本事業の推進に当たっては、「受験生・保護者」、「在学生・保護者」、「自治体・企業・研究関連機関」、「地域住民」という各ステークホルダーに対しての指標を設定し、PDCAを回しながら各事業の推進に取り組んできた。高く設定した各指標については期間内での成果が途上のものであったが、概ね成果を達成することができた。この成果に基づき奈良学研究推進委員会においても検討を行い、構築した「帝塚山プラットフォーム」上で本学独自の「奈良学」研究を支援終了後も継続していくため、組織的なPDCAを回しながら本学のブランド力を高めていくことを確認した。なお、令和2年3月に開催を予定していた「奈良学フォーラム」で、本学における奈良学研究的の総括を発表することとしていたが、新型コロナウイルスによる自粛要請を受け、同フォーラムの開催が中止となった。</p> <p>(外部評価) 3月に、令和元年度の外部評価委員会を開催し、3名の外部評価委員(奈良教育大学学長・奈良県明日香村村長・生駒市観光協会会長)から、以下の講評や評価、意見をいただいた。 ・本事業で帝塚山大学は、奈良に関する研究のベース「奈良学」を作ってしまったと言える。 ・本事業におけるアウトカムは何か。奈良出身学生の増加、県外出身学生の卒業後の県内就職や居住等に加え、最大のアウトカムは、地域を理解し地域のリーダーとなってくれる人材をいかに多く輩出してくれる大学であるかということ。 ・「実学の帝塚山大学」を標榜し、本事業を通して、大学に求められる独自の個性を遺憾なく発揮出来ていた。本研究成果拡充のための次の展開は、地元で奈良の特色を生かした活動を行う団体・者との繋がりをさらに強固にすること。</p>
<p>⑤ 令和元年度の補助金の使用状況</p>	<p>今年度の補助金の主な使用状況については以下のとおりである。 学際的「奈良学」研究推進のための基盤資料等の購入費、事業統括・研究支援のための推進員人件費、研究出張・学術報告会等の国内旅費、本事業に関する実績報告書作成費、講座やフォーラムの案内チラシ・調査概報・報告書等の印刷製本費、展示用パネルの印刷・製作費、その他経費(通信費・消耗品・雑費)等</p>